

新型インフルエンザ対策



新型インフルエンザとは

もともとは動物に感染するインフルエンザウイルスが、ヒトにも感染するようになり、さらにヒトからヒトへも感染しやすく変化したものです。

ヒトが免疫を持たない新しい型のインフルエンザウイルスであるため、人口の4分の1が感染するといわれ、短期間で多くの患者が発生し、日常生活に大きな変化が出るのが心配されています。

◎症状

新型インフルエンザに変異した場合の症状の程度は、現在のところ予測することは困難ですが、新型インフルエンザに変異することが懸念されている高病原性鳥インフルエンザの症状は、発熱、咳など人の一般的なインフルエンザと同様の症状の他、下痢、結膜炎、呼吸器症状、多臓器不全など様々な症状が見られ、死亡の主な原因は肺炎とされています。

◎治療法

毎年流行する通常インフルエンザの治療に用いられている抗インフルエンザウイルス薬（タミフル等）が有効であると考えられています。（タミフルについては、国の行動計画等をふまえ、発生時の患者治療に必要な量を県、国等で備蓄しています。）

新型インフルエンザが発生したら

◎感染予防

- ・外出する時はマスクを着用し、帰宅後のうがい・手洗いの習慣を身につけましょう。
- ・特に必要がない場合、不特定多数の人が集まる場所への外出を控えましょう。
- ・水分を十分にとり、バランスのよい食事をするようにしましょう。

◎予防法

通常のインフルエンザと同じ予防法を行います。

◎具体的には

- ・マスクの着用・手洗い・こまめなうがいを心がけましょう。
- ・流行時には、人混みや繁華街への外出を控えましょう。
- ・発熱、咳、くしゃみなどの症状がある人はマスクを着用するなど、咳エチケットを心がけましょう。

*咳エチケットとは

- ・咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ顔をそむける。

- ・使用後のティッシュはすぐフタ付きのゴミ箱に捨てる。
- ・症状のある人はマスクを正しく着用する。

なお、新型インフルエンザに対する予防接種（パンデミックワクチン）は、新型インフルエンザの発生後にそのウイルスから製造されるものであるため、現在は製造されていません。

◎情報の収集

新型インフルエンザに関する知識や個人ができる予防対策などについて、子どもを含め正しい知識を習得しておきましょう。

◎家庭内での取り決め

家族が感染し一定期間自宅待機になった場合、学校が長期に休みになった場合、勤務状況の変更を余儀なくされた場合などについて、家庭内でどのように役割を分担し家庭を維持していくか、各家庭で計画を立てておきましょう。

また学校や職場への連絡方法、近くの保健所の連絡先などを家族全員で把握しておきましょう。（連絡先リストを作りましょう。）

◎職場での対策

新型インフルエンザが発生すると、従業員本人が罹患したり、罹患した家族の看病等で、一時的に相当数の従業員等が欠勤することが予想されます。（米国の職業安全管理局のガイダンスでは、新型インフルエンザ流行のピーク時の欠勤率を40%と想定しています。）

そのような場合に備えて、業務の運営体制について検討を行い必要な対策をとりましょう。

また、感染拡大防止のために、次のような業務形態の可能性も検討しておくことも必要です。

- ・在宅勤務で可能な業務の有無
- ・対面による会議を避け、電話会議やビデオ会議を利用する。
- ・ラッシュ時の通勤および公共交通機関の利用の回避

新型インフルエンザかなと思ったら

38℃以上の発熱及び急性呼吸器症状があり、新型インフルエンザ患者と接触したり、新型インフルエンザが発生している地域に行った場合は、まず、鹿屋保健所（☎0994-43-3107）に電話をしましょう。

保健所で、受診する病院、受診方法等を教えてくれます。病院を受診する際は、他の人に感染しないようにマスクをして行きましょう。